

E S Dに関するユネスコ世界会議開会全体会合

下村文部科学大臣挨拶

日時：平成 26 年 11 月 10 日（月）

場所：名古屋国際会議場

本日ここに皇太子同妃両殿下、ララ・ハスナ王女殿下の御臨席いただきますとともに、E S Dに関するユネスコ世界会議に多くの方々の御参加をいただいていることは、誠に光栄なことであります。文部科学大臣として、主催者を代表して心から歓迎を申し上げます。

御存じのとおり、E S Dの 10 年は、2002 年のヨハネスブルク・サミットにおいて、当時の我が国の小泉総理が提唱し、第 57 回国連総会で決議されたものです。それ以降、我が国はユネスコへの支援を通じて、国際的にも E S Dを推進してきたところです。現在では、世界各地で E S Dの取組が広がっていることを大変嬉しく思います。

日本国内においても、政府が策定する教育計画（教育振興基本計画）及びカリキュラムを編成する際の基準（学習指導要領）に E S Dの理念を盛り込むなど、E S Dを積極的に進めてきました。

また、ユネスコスクール加盟数は、世界最多となる 807 校あり、様々な E S Dの実践が現場レベルで取り組まれています。

現在、我々は、様々な課題に直面しています。例えば、気候変動問題について、本年 9 月には国連気候サミットが開催され、新たな枠組みの構築に向けた各国の政治的意思が確認されるなど、世界全体で克服していこうという気運が高まっています。日本では、世界に先がけて燃料電池車の実用化を実現するなど、地球環境に配慮した様々な取組を進めています。

このような中、新たなスタートを切るような気持ちで E S Dの一層の推進に取り組む必要があると考えています。

加えて日本にとって 2020 年は、我が国で東京オリンピック・パラリンピックが開催される年であり、日本が今後進む方向性を形づくる、まさに我が国にとっての大きな転換点になると考えています。このイベントを環境に十分に配慮したものにしながら、若者等が自信を持って積極的に環境問題をはじめとする地球規模の課題の解決に向け、行動を起こすことを促していきたいと考えており、その

ための重要な視点となるのが、E S Dであると考えています。

我が国は、E S Dに最も積極的に取り組んでいる国の一つであるとの自負を持って、国内の取組をさらに充実させていくとともに、国際社会全体のE S Dの推進に貢献していきたいと考えています。

そこで、日本としての新たな取組を発表したいと思います。全世界の中でE S Dに関する優れた取組を表彰する「ユネスコ／日本E S D賞」(the UNESCO-Japan Prize on ESD)を創設することとしました。この賞が、世界中のE S Dの実践者にとって、より優れた実践に挑戦する動機づけとなることを期待しています。

本世界会議の開催に当たっては、ユネスコ関係者や、愛知県・名古屋市、岡山市との堅密な連携の下に準備を進めてまいりました。様々な文化イベント等も用意されておりますので、会議開催期間中、有意義な時間をお過ごしいただけるものと考えております。

最後となりましたが、今回の会議が実り多きものとなり、その成果が国際社会に向けて発信され、世界中でE S Dが一層推進されますことを祈念させていただきます。私の挨拶とさせていただきます。

(以上)